

生徒指導だより

玖珠美山高校

6月28日

駅長さんから
「他のお客さんに迷惑をかけるような行為はありません。最近、列車内で落とし物、忘れ物が多くなっています。降りる際には確認をしてください。」

上り下りの様子で共通して言えることは校外では挨拶があまり出来ていないと感じました。声をかければ返ってきますが、担当の先生もいるのに生徒から進んで挨拶をすることが無く、寂しい思いをしました。校外でも出来ること、もっと地域に良さをアピールできるのでは……。

雲の峰

梅雨明けの夏空に沸き立つ入道雲は、高さを競う山の峰のように見えるので「雲の峰」と表現される。入道雲を峰にたとえるのは、古代中国の詩人・陶淵明が「夏雲奇峰多し」とうたったのが最初と言われる。

白雨

夕立のこと。大粒の雨が地面をたたきつけ、水しぶきで辺りが一面もうもうと白く煙ることから「白雨」と表現される。時には雷鳴を伴って激しく降り、全てを洗い流す豪快さと、涼気をもたらす爽快さとが愛されて、夏の風物詩となっている。

7月5日

自転車安全教室 交通安全講話

「公共連主催によるスケアー・ド・ストリート教育技法による自転車教室が本校グラウンドで開催されました。スタントマンによる事故再現にはハラハラ、ドキドキしました。しかし、ただ「凄かった」で終わっては意味がありません。残念なことに、次の日、自転車並列で登校している生徒を何人も見かけました。スマホに夢中になり前を全然見ないで歩いている生手を何人も見かけました。」

自分の行動、考えを急に変えるのは難しいですが、「変えなければいけない」という気持ちを持つ事はそう難しい事ではないと思います。どこか心の片隅にでも留めておくことは出来るはずです。

「ちょっと変わってきたなあ」

行動に変化が表れることを期待しています。



列車補導に参加して

健全育成委員長 麻生一美

梅雨の真っ只中、大雨洪水警報の出ている中、担当の先生方、役員の方、大変お疲れ様でした。私は、上り列車に乗車でしたが、下りの様子を見たく森駅で待機していました。テスト期間とあって生徒も多く感じられました。駅構内では一般の方に迷惑をかける行為も無く、楽しそうに列車を待つ様子が見られ安心しました。テストの話をする「出来んやっ」と少し落ち込んで帰る生徒、それぞれに乗車し、帰って行きました。

下りから一時間後、上りに乗車しました。森駅で折り返しということで早くから停車しているので、乗車して列車内でゆっくりくつろぐ生徒、時刻にあわせて構内にいる生徒がいました。車内には十数名の生徒でしたが、テスト勉強する生徒、スマホで音楽を聴いている生徒とそれぞれのことをしていて静かでした。

上り下りの様子で共通して言えることは校外では挨拶があまり出来ていないと感じました。声をかければ返ってきますが、担当の先生もいるのに生徒から進んで挨拶をすることが無く、寂しい思いをしました。校外でも出来ること、もっと地域に良さをアピールできるのでは……。

駅長さんから

「他のお客さんに迷惑をかけるような行為はありません。最近、列車内で落とし物、忘れ物が多くなっています。降りる際には確認をしてください。」

7月6日

薬物乱用防止教室

本日の講演を通して薬物が身近な場で取引されていることを再確認することが出来、また大分でも事例があることに驚きました。これから大学に行くために都会に出て行かなければならないので断る勇気と立ち止まって考える心を忘れず忘れずこれからを過ごしていきます。

私は自分よりむしろ家族が大切なので、何があっても薬物に手を染めることはありません。家庭を不幸にすることは絶対に出来ません。薬物に手を出しそうな程、悩むことがあっても、家庭の方が大切なので心配ないと毎回思います。そう思い返す機会を頂けることは大変ありがたいです。

覚醒剤は自分も周りの人も狂わせてしまうので、何があっても絶対に手を出してはいけないと思います。使用したときに神経がおかしくなって、ずっと治らないと言っていたのには驚きました。どんなに辛くて苦しいときでも、覚醒剤という物に頼らなくていいような、社会作りが出来たらいいです。

今日、観たビデオで、薬物は依存性が高く何年経っても止めることが出来ない、怖い物だと改めて思いました。実際に玖珠でも薬物事件が起きていて、すぐ近くまで危険が迫っているんだと感じました。

これからも絶対に薬物にはかかわりたくないと。人生を狂わせることがないように、もし勧められてもきっぱり断る。玖珠でも薬物を使っている人がいたことを知って怖くなった。

大分合同新聞

2016年(平成28年)7月13日 水曜日 夕E版

交通マナー 48%が「悪い」

JAFアンケートで大分

あなたが住む都道府県の交通マナーはどうですか？
日本自動車連盟(JAF)が6月にインターネットを通じてアンケートした結果、「悪い」「とても悪い」の割合が最も多かったのは香川で80%、続いて徳島(73.5%)、茨城(67.2%)の順だった。大分は48.3%だった。全体では「悪い」「とても悪い」が4割弱なのに対し、「とても良い」「良い」は1割強にとどまった。JAFがこうした調査をするのは初めて。担当者は「実際の事故発生率との関係はない。結果を基にマナー向上キャンペーンを展開したい」と話している。

香川は「ワインカー」を outsizes に車線変更や右左折する車が多い」「とても思う」「やや思う」とした人の割合が9割を超え(大分は8割超え)、「青信号になる前に発進する車が多い」も6割超だった(同45.5%)。「不要なクラクションを鳴らす車が多い」と感じる人は大阪と京都が多く、4割超だった。交通マナーが「とても良い」「良い」が多かったのは、岩手、長崎、島根、秋田の順で、2割を超えたのはこの4県だけだった。全体の97%が「交通マナーを意識している」が、「信号機のない交差点で歩行者が横断歩道を渡ろうとしている場合、一時停止しなればならないが、知っているか」という具体的な状況に関する設問には、約3割が「知らない」「たまにしか行動に移せていない」と回答。8割以上が「運転中に携帯電話を使っているドライバーが多い」と答えた。アンケートは6月15日30日に実施、約6万5千人が回答。結果はJAFのホームページで閲覧できる。

大人も子供も、みんなで交通マナーを守って、事故のない玖珠町を!